

ダム等管理フォローアップ  
意見を受けての報告書修正対応表

【九頭竜ダム】

平成 26 年 3 月

## 【九頭竜ダム】

### 1.事業概要

特になし

### 2.治水

特になし

### 3.利水

項目	意見	整理状況	今後の対応方針
発電量の記述 本編 3-21,22	温暖化に関して本編に多くのページを割いて考察しており評価できる。ただし、集計において年度と年を混在して使っているため、統一した方がよい。 (角委員)	集計期間は11月～翌5月とし、表記は年に統一した。 (例えば、H20.11～H21.5 は、H20 と表記) 【委員会意見により修正】	—

### 4.堆砂

特になし

### 5.水質

特になし

### 6.生物

項目	意見	整理状況	今後の対応方針
全般	貯水位変化が生物等に与える影響を確認せずに「温暖化の影響」というのは乱暴である。全体的には無理な表現(評価)が多い。 (江崎委員)	「温暖化」に関する記述は削除した。 【委員会意見により修正】	—
魚類・ダム湖内 本編 P6-71 魚類・下流河川 本編 P6-103 本編 P6-107	当該環境に関する特定の種の確認の有無でダムの影響は評価できない。「止水性の種が確認されておりダム湖内の環境が安定している」としているが、「環境の安定」とはどういうことか。「～が安定して確認されている」程度の表現にしておく方がよい。 (江崎委員) 魚類(下流河川)で産卵場の記述があるが、アユの産卵場はこのようなどころにない。環境指標種をカジカ等に絞って記述した方がよい。 (前畑委員)	当該環境に関する種の確認の有無によって環境状況を評価する表現は削除し、魚類、底生動物の文章を以下のように修正。 「ダム湖内では、ギンブナ、ホンモロコ、ニゴイなどの止水環境を好む種が継続して確認されている。」 「下流河川では、砂礫質の川底を生息場・産卵場として利用するカワムツ、アブラハヤ、ウグイ、アカザなどが確認された。」 「止水性の泥質底の環境を好むイトミミズ目が大部分を占めている。」 【委員会意見により修正】	—

項目	意見	整理状況	今後の対応方針
魚類・ コクチバス 本編 P6-76 本編 P6-188	コクチバスの問題(在来種への影響)は大きいと思う。 (江崎委員)	今後の方針に以下の記述を追加。 「コクチバスについては、福井県や漁業関係者、電力事業者と連携して、釣り人等の理解と協力を得るよう啓発に努める。」 【委員会意見により修正】	福井県や漁業関係者、電力事業者と連携して、釣り人等の理解と協力を得るよう、看板の設置やチラシの配布等、啓発に努める。
魚類・ コクチバス 本編 P6-76	コクチバス対策は対症療法では限界がある。幹線道路が貯水池横を通過しているなど九頭竜ダムの立地も影響していると思う。 (江崎委員)	県や漁業者と連携した対策(産卵床の駆除等)の実施は記載済み。	同上
陸上昆虫類・ チョウ類の 環境指数 本編 P6-152	チョウ類相の変化で例示しているウスイロオナガシジミはいつでも確認できる種ではなく、クジャクチョウは北方種という疑問がある。例示する種(環境指標種)が適切でない。 (松井委員)	環境指標種の例示は削除した。また環境指数(EI)の変化について、以下の文章を追加した。 「環境指標性のチョウ類の確認状況をみると、平成 16 年度までは大きな変化はなかったが、平成 20 年度調査では調査方法の変更等による確認種数の減少に伴って主に多自然種の確認種数が減少した」 「※1 「陸上昆虫等」については、平成 18 年の河川水辺の国勢調査マニュアル改訂により、調査・同定の対象分類群が絞り込まれたこと、調査地点や調査方法に変更等があり、平成 20 年度調査では種類数が減少している。」 【委員会意見により修正】	—
	チョウ類相の変化の要因として「気候変化の影響の可能性が指摘されている」とあるが資料出典を明記する。 (松井委員)	「温暖化」に関する記述は削除した。 【委員会意見により修正】	—
陸上昆虫類 の確認種数 本編 P6-58	本編 P6-58 の昆虫類の確認種数集計表は間違えている可能性がある。 (松井委員)	データを確認し、確認種数集計表を修正した。その他の項目についても集計をチェックし、誤りがないことを確認した。 【委員会意見により修正】	—

## 7.水源地域動態

特になし

以上